

第十一講 ルーガルザゲシの帝国とアッカド帝国

ルーガルザゲシの帝国（前 2340-2316 年）

ウンマのエンシ

ラガシュ撃破 前 2340 年頃

↓

南部メソポタミア征服・・・50 の都市を支配

ウルクに遷都

ニップール占領

↓

「国土の王 Lugal kalam ma ki」を名乗る

北部経略：キシュ攻略（前 2318 年頃）

地中海沿岸に進出

サルゴン（シャル・キン）を利用：その間南部征服に集中

↓

ウグバンダの戦い（前 2315 年頃）

ルーガルザゲシの敗北とその帝国の滅亡

アッカド帝国（前 2318-2190 年頃）

サルゴン（シャル・キン：前 2334-2279 年頃）

シャル・キン：「真の王」という意味

○ 伝説によると・・・

キシュ王ウルザババの宰酒長

王権奪取：王を裏切り、ルーガルザゲシに内通

↓

アッカド（アガデ）建設

○ セム系

弓兵主体の機動部隊

○ 初期・・・ルーガルザゲシに服従

3 年目 北方遠征→シリア

↓

ルーガルザゲシの帝国戦略の一端を担う

ルーガルザゲシに警戒感を抱かせる

↓

対立

○ ウルク奇襲・破壊

ウグバンダの戦いでルーガルザゲシと 50 人のエンシの連合軍を撃破

ニップールのエンリル神殿にて「全土の王」「シュメール・アッカドの王」を名乗る（前 2315 年頃）

南部制圧

ウル、ラガシュ、ウンマ→「その手を海で洗った」

↓

ペルシア湾貿易の独占

「メルカの船、マガンの船、ティルムンの船をアガデの港に停泊せしめた」

南部支配

各都市のエンシ（都市長官）や高官←アッカド人任命

○ 西北方遠征～シリア（治世 11 年目 前 2207 年）

ユーフラテス川沿い→トゥットウル→マリ→イアムルティ→イブラ→杉の森（レバノン）→銀の山（タウロス山脈）

↓

シリア、レバノン、小アジア東部を支配圏内

木材の大量流入

○ プルシュカンダ（小アジア東部）のヌル・ダガルを屈服

○ 「上の海（地中海）の向こうの地」→アナクとカタプラ（クレタ）

征服

帝国の支配

官僚制：各都市のエンシ・・・アッカド人・・・直接支配

属国

常備軍：5,400名

弓兵主体の軽装機動歩兵軍

貿易活動の独占

小アジア・・・銀

シナイ半島・・・銅

メルカ・・・金

マガン・・・石材

レバノン・イブラ・メルカ・・・木材

リムシュ（前 2279-2266 年頃）

南部とエラム、ティグリス川沿いの地域の反乱

宮廷クーデタ

マニシュトウス（前 2266-2252 年頃）

帝国内の反乱

↓

北と北西向けの貿易ルート回復

東：アンシャンとエラム撃破

南：海の彼方の 32 王の連合軍撃破

宮廷クーデタ

ナラム・シン（前 2251-2215 年頃）

キシュとシッパルを中心とする大反乱

↓

領土拡大

(1) マガン遠征・・・南アラビアまたはアフリカ

(2) マリ～トルコ領クルディスタン

(3) シリア

(4) カップドキア

↓

国境の安全確保

スバルトゥとエラムを制圧

ルルビア人遠征

内政

アッカド人官吏重用
駐屯軍の増強
統一的暦年制度
度量衡の統一
ナラム・シンの神格化

末期

長年の飢饉
グチ人の平野部進出
大反乱

シャルカッリシャッリ（前 2217-2193 年頃）

首都をかろうじて防衛
エラムとスバルトゥ独立
諸州離反

↓

北東との貿易路断絶
南のシュメール都市離反
グチ人との戦い

↓

アッカド帝国の崩壊（前 2190 年頃）

ニップールの南側
各都市の貢納物貯蔵
緊急用

- 「(1) サルゴンはイシュタルの統治の間に権力の座に就きそして
(2) 彼には敵対するものも対等なものもいなかった。彼の輝きは、諸地域の上に
(3) 広がった。彼は東方で海を渡った。
(4) 11 年目に最果ての地に至るまで西方の地を征服した。
(5) 彼はその地をひとつの権力のもとにもたらした。彼はその

地に自らの像を設置し

- (6) 屋形船に乗せて西方の戦利品を渡した。
- (7) 彼は十時間間隔で彼に仕える宮廷の役人を駐筈させ
- (8) 各地の部族を統一して統治した。
- (9) 彼はカザッルに攻め入りカザッルを瓦礫の塊に変えてしま
い、
- (10) その結果一羽の鳥の為の止まり木さえ残されなかった。
- (11) その後、その晩年に、すべての地方が再び反乱を起こし
- (12) アガデの町の中に彼を包囲した。サルゴンは討って出て彼
らを打ち破った。
- (13) 彼は彼らを打ち倒し彼らの大軍を打ち負かした。
- (14) のちに、スバルトゥがサルゴンを攻め彼を武装させた。
- (15) サルゴンは待ち伏せをし彼らを完膚なきまでに打ち負かし
た。
- (16) 彼は彼らの大軍を撃破し
- (17) 彼らの資産をアッカドに送ったのである。
- (18) 彼はバビロンの堀の土を掘り上げ
- (19) バビロンをアガデに次ぐ都市とした。
- (20) 彼が行なった悪事ゆえに大神マルドゥクは怒り給い彼の家
族を飢饉によってぬぐい去ってしまわれた。
- (21) 東から西に至るまで、従属民たちは彼に対して反旗を翻し
- (23) マルドゥクは彼を不眠症で悩ました。
- - - - -
- (24) サルゴンの子、ナラム・シンはアピシヤに進軍した。
- (25) 彼は町の壁に穴を穿ちリシュ・アダドを
- (26)、アピシャルの王を、そしてアピシャルの大臣を捕らえた。
- (27) 彼はマガンに行軍しマガンの王マンヌ・ダンヌを捕らえ
た。」

(A.K. Grayson, *Assyrian and Babylonian Chronicles* (1975))